

## 『思いが数字を超える！』

合格校 豊島岡女子中 淑徳与野中 栄東中 西部文理中

彼女はとにかく塾に入った時から「豊島岡女子」「豊島岡女子」と何度も言っていました。これは保護者の方も同じでした。学校に対する愛が非常に強くて、「これは何としても期待に応えなければならないな」と私自身、自覚していました。

しかし、「豊島岡女子」いまや日本最高峰の女子校です。簡単に合格する学校ではありません。彼女の成績も十分に足りていたかと言えば、そうではなかったというのが正直なところです。

中学受験がスタートし、1月～2月1日まで順調なスタートだったかと言われたら、むしろ苦難の連続だったと思います。1月の入試が落ち着いたとき、保護者の方と面談をして2月の方向性を決めました。私から伝えたのは、  
「今の状況で、2月2日・3日・4日と豊島岡女子に挑戦するのはあまりにも無謀です。しかし、入塾当初から豊島岡女子にあこがれていたお気持ちは十分にわかります。私にできるのは、合格の可能性が何%あるのか、数字で表すことだけです。本人とお母さんの豊島岡女子に対する思いまでは数字にできません。これをふまえた上で、最後の決断はご家庭で決めていただくしかありません。ご家庭で悩んで決断したことであれば私は100%支持し、力を尽くします。」

結果、三日間、豊島岡女子を受けることになりました。2月2日は不合格(その日の夜に結果が分かる)、2月3日の受験を終えた帰りに、親子で塾に立ち寄っていたとき、「どんな結果にせよ、結果は明日報告します」と告げて帰られました。2月3日の夜、校舎で見覚えのある電話番号から着信があり、「これはもしや!？」受話器越しにお母さんの「合格しました!」との嗚咽の声。奇跡の逆転合格。学校に対する思いが、通じた瞬間でした。

彼女の受験生として優れていたところは、【口頭テスト】という取り組みをしていた時のこと(口頭で聞くことで順番をランダムにできて、関連する事柄まできくことができる)、先生側が食事をしていても、「今テストいいですか?」と聞いてきたことです。受験生としてこの「凶々しさ」は武器であり、受験生はこうあるべき!という自分の中でも見本になった生徒です。

「思いがあるなら行動せよ。」受験生だけでなく、すべての人に伝えたい言葉です。